



(豊岡)

豊岡城館遺跡は、文献的には、戦国期、織豊期、江戸期およびそれ以降の時期に大別できるが、戦国期の山城に伴う館遺構は、当該調査では確認できなかった。  
市立図書館新設に伴う今回の調査で確認されたのは、豊臣秀吉の北但馬支配の一つの拠点として置かれた豊岡城に伴う遺構が最古のもので、宮部善祥坊（天正八年（一五八〇）の時期にあたる。遺構は、掘立柱建物

# 兵庫・豊岡城館遺跡 とよおかじょうかん

- 1 所在地 兵庫県豊岡市京町
- 2 調査期間 一九九六年（平八）六月～一九九七年七月
- 3 発掘機関 豊岡市教育委員会・出土文化財管理センター
- 4 調査担当者 宮村良雄・谷本由美
- 5 遺跡の種類 城館跡
- 6 遺跡の年代 織豊期～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

や石敷などがある。

宮部以降、短期間で数代の領主が交替するが、慶長二年（一五九七）に杉原長房が配置され、城館部分の大改修をはじめ、豊岡城下町の大規模工事に着手している。調査では、礎石建物や搦手門、城内郭の北西を画する石垣を伴う堀などを検出した。報告の木簡は、この石垣造営のための土の中から出土した。城内郭の工事には、層厚にして1m以上の大量の土砂が盛土として使用されており、木簡を含む土は、城館の外堀掘削などによる近接地からの搬入土と理解している。以上のような理解にたてば、木簡の具体的な年代は、一五八〇～九〇年代と考えられる。

杉原氏以後、天領の時期が若干あって、寛文八年（一六六八）に京極氏が移封になり、豊岡城下町の拡大が図られているが、館部分はさほど顕著な土木工事はされていない。

## 8 木簡の积文・内容

- (1) ・「」衛門 殿「」

・「」

148×25×4 033

木簡は、上部の一端を欠くものの、ほぼ全容がうかがえる。形態および内容からみて、荷札であろう。（瀬戸谷皓・宮村良雄）